(IV－67) 桐生市における旧市街地のまちづくりについての一考察

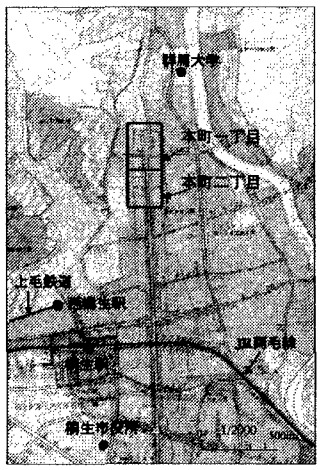
足利工業大学工学部　学生員　木村竜也
足利工業大学工学部　正会員　為国孝敏

1．はじめに

わが国の地方都市の多くは、近世以降の都市骨格そのままに近代化し、今日にいたる歴史性を有している。そのため、中心市街地では、その街路構成が現在の自動車社会にそぐわず、さまざまな問題が起きている。その中の一つが都市の賑わいの郊外化である。そのため、多くの都市で中心市街地の活性化が課題となり、地域性、歴史性を考えた計画が必要となっている。本研究では、桐生市の本町一・二丁目の現状を把握し、住民が地域のことをどのように感じ、将来どのような「まち」にしたいかなどの意識を調査・分析することを目的とする。

2．桐生市の概要

桐生市は、総面積 137.47km²、人口約 12 万人の都市であり、交通網として、国道 50 号・国道 122 号・ JR 両毛線・東武桐生線などがある。桐生市は平成４年３月 17 日に近代化遺産拠点都市宣言をしている。これは、桐生では織物産業を基盤とした近代化遺産が多く見られるため、近代化遺産を新しい目で発掘し、評価し活用した新しい都市づくりを進め、従来の都市計画を文化財の観点から見直すという考えである。



図－１　本町一・二丁目の位置

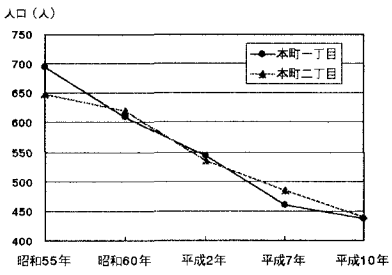
3．対象地域の概要

対象とした本町一・二丁目は、近代の織物産業が華やかなりし頃の中心市街地である。当該地域は、古い町並みが残っているため都市計画道路の整備が進んでいない。しかしながら、本町一・二丁目には、近代化遺産が多く残っており、新しい桐生のまちづくりの核となる可能性がある。

一方で、本町一・二丁目は、年々人口が減少するとともに、高齢化が進んでいる。商店街は、市街地人口の減少、空き店舗の増加、経営者の高齢化などにより桐生市内での求心力が弱まっている。

4．住民意識調査

本町一・二丁目の住民を対象に家庭訪問留置法によるアンケート調査を行った。このアンケートでは、住民が今住んでいる地域をどのように考え、どのような「まち」にしたいかを調査することを目的とする。アンケート調査は、平成 12 年 11 月 2 日に配布、11 月 6 日に１回目回収、11 月 8 日に２回目回収を行った。調査項目として、「年齢、職業などの個人属性」「古い町並みに対する住民意識」「道路交通の安全性などの生活環境」「本町一・二丁目の将来像」などを挙げている。



図－２　本町一・二丁目の人口

アンケート調査は、対象地域内の 15 才以上全員を対象とし、配布数は 624 人、回収率は 73％、有効回答数は 444 人（71％）となった。

キーワード：桐生市、まちづくり、アンケート調査
連絡先：〒326-8558　栃木県足利市大前町 268-1（足利工業大学土木工学科）　TEL　0284－62－0605　内線 385

5．アンケート調査の分析

回答者の年代をみると、60 才以上が 49%、40～59 才が 24%となっており、高齢化が進んでいることがわかる（図－３）。

普段よく使う交通手段をみると自動車が 42%、自転車が 23%、徒歩が 13%となり、自動車の利用率が高いことがわかった（図－４）。年代別では、高齢者の独居世帯以外のほとんどの世帯で自動車が使用されているほか、高齢者、学生は、自転車・徒歩の利用が多いことがわかった。

買物行動では、自動車を使用している人の多くが、本町一・二丁目の商店街で買物をしていない。「月に２・３回」「ほとんど行かない」「商店街で買物をしたことがない」の回答を合計すると 51%となった。商店街をよく利用する人は高齢者で普段、徒歩や自転車を使用する人が多い。商店街を利用しない理由の一つとして、商店街での駐車場の問題が考えられる。住宅や店舗が密集していて、駐車スペースが少ないことである。自動車利用者の商店街での駐車スペースについてのアンケート結果をみると、やや不満が 34%、不満が 35%と多い（図－５）。

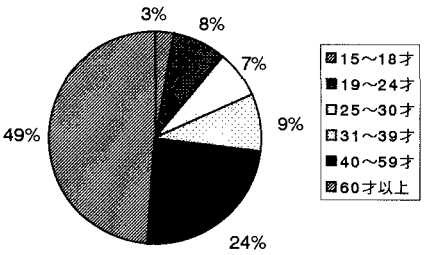
また、駐車スペースが少ないことの影響として路上駐車が多く、自転車・徒歩を使用している人から危険であるなどの意見があった。本町一・二丁目の本町通り、その他の通りの「安全性」「利便性」「広さ」は、普通が一番多く、次にやや不満と大きな変化はなかった。

住民が望む本町一・二丁目の将来像をみると、「静かで落ち着きのある、住みやすい町」を一番と選んだ人が 45%「便利で機能的な、住みやすい町」を一番に選んだ人が 30%となった（図－６）。「観光客など外からの人が集まる町」を一番に選んだ人は 5%と少なく、ほとんどの人が賑やかな町ではなく、生活環境の整った住みやすい町を望んでいることがわかった。

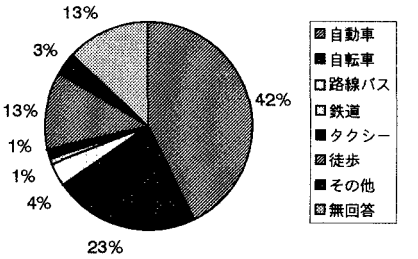
6．まとめ

本町一・二丁目は高齢化が進行しており、将来さらに人口減少が進むことが予想される。すなわち、いかに若い世代を引き留めることができるかが、人口減少をくい止める鍵となろう。特に不満が出ている商店街の駐車場問題の解決など、機能的で住みやすい環境にすることが、まちの活性化につながると考えられる。

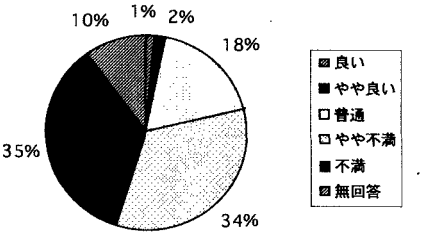
今回アンケート調査を行った結果では、地域に大きな不満を持っている人が少く、まちづくりに対する問題意識を持っている人がけっして多くはない現状がわかった。そこで本町一・二丁目の将来像を明確にし、いかに住民の意識を高めていくかが課題である。



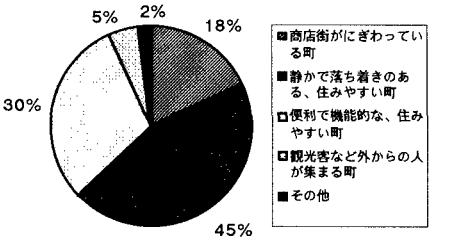
図－３　回答者の年代



図－４　普段の交通手段



図－５　自動車使用者の商店街での駐車スペース



図－６　本町一・二丁目の将来像

謝辞：本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた桐生市役所都市計画課、及び桐生市本町一丁目・二丁目町内会、「本一・本二まちづくりの会」の各位、さらに足利工業大学土木工学科交通計画研究室の小黒宏和氏に、心より感謝の意を表します。